令和７年度　第１回　菊池市総合教育会議　（議事録）

○招集年月日　　令和８年１月19日（月）　15時30分～

○招 集 場 所　　菊池市生涯学習センター「キクロス」　２階　大研修室

○議 事 日 程

１　開　会

２　市長挨拶

３　議事録署名者の指名

４　議題
（1）「第４期菊池市教育振興基本計画」について
①子どもの生きる力を育てる
②郷土を愛する心を育てる
③グローカルな人財を育てる
④生涯を通した学びを推進する
⑤文化芸術やスポーツの振興を図る
（２）その他

５　閉　会

○会議の公開、非公開又は一部非公開の別　　　公開

○出席委員及び欠席委員の氏名

[出席委員]	市　長	江頭　実
	教育長	音光寺　以章
	教育長職務代理	渡邉　和雄
	委　員	増永　幸一郎
	委　員	岩根　美紀
	委　員	白木辰也
	委　員	三上かおり

○出席職員

教育部長	前川　幸輝
教育審議員	冨永　泰寛
生涯学習ｾﾝﾀｰ長	吉川　良二
指導主事	清永　邦宏
指導主事	北村　美紀
学校教育課長	岩根　貴史
学校給食管理室長	財津　裕一
生涯学習課長	川口　克明
文化課長	坂本　憲昭
社会体育課長	川島　健一
中央図書館長	松寺　盛親
学校教育課課長補佐	本山　大翁

○議 事 内 容

議　題	**（1）「第４期菊池市教育振興基本計画」について**
【議長】	議題（1）「第４期菊池市教育振興基本計画」について事務局より説明を求めます。
【事務局】	事務局より計画の概要説明。
【議長】	ありがとうございました。それでは計画における基本方針の「子どもの生きる力を育てる」について、お一人ずつご意見をいただきたいと思います。
【委員】	昨年度から実施している「菊池っ子60運動」のさらなる推進をお願いしたいと思います。委員会で示されたアンケート結果から、家庭内での会話が想定以上に行われていることが分かりました。本運動を継続・拡充することで、家庭の中で子どもと保護者の対話の機会が増え、生活リズムの確立や不登校対策にもつながると思います。結果として、市全体もよくなっていくのではないかと思います。 また、共働き世帯の増加を踏まえ、放課後16時から18時頃までの子どもの居場所づくりの充実が必要です。現在、一部の小学校で実施されている生涯学習マイスターによる取組を市全体に広げるとともに、学習とスポーツを組み合わせた活動を、放課後児童クラブと連携して進めていくことが必要です。 さらに、中学校部活動の地域展開については、指導者の確保や費用負担などの課題があることから、アンケート結果を踏まえた検証と評価を行い、子どもたちの成長を支える体制づくりを進めていただきたいと思います。
【委員】	知・徳・体の基本的な考え方は変わりませんが、その捉え方は時代とともに変化してきていると感じています。最近、小中学校を訪問すると、子どもたちがタブレットを効果的に活用し、自分の考えをまとめたり発表したりする授業が多く見られ、機器の充実と先生方の指導の努力の成果であると感じています。 一方で、理科や数学といった理数系教科については、理科離れ・数学離れの傾向が見られ、学力調査の結果からも苦手とする子どもが増えているのではないかと感じています。その背景には、現象や法則が抽象的で生活との結びつきが感じにくく、学ぶ意義が伝わりにくいことがあると考えられます。中には、将来役に立たないという誤った認識を持つ子どももいます。 理系人材の不足は国際的な課題でもあり、熊本ではTSMCの進出を契機に関連企業の集積が進む中、今後こうした分野で活躍できる人財が菊池から多く育つことを期待しています。ICTの活用などを通じて理数分野への関心を高め、さらに上級学校での深い学びにつながる子どもが増えることを願っています。
【委員】	１つ目は、ICT教育についてです。市においてタブレットなどの学習機器が充実してきていることは評価しており、これらを活用して、子どもたちが学んだ成果を発表する場や、プログラミング大会などを市主催で実施できればと思います。大規模な大会に限らず、楽しさを重視した作品募集のような形でも十

	なく、保護者、学校、地域が連携し、協力しながら進めていくことが重要であると思います。
【議長】	皆さんのご意見を総合しますと、知・徳・体をバランスよく育てる人間づくりが重要であると思います。特に、AI の進展により社会が大きく変化する中で、今後は知識そのもの以上に、心の在り方や考え方、自ら考えて行動し、道を切り開いていく力が一層重要になると感じています。 先行きが不透明な時代だからこそ、困難に直面しても折れない体力や精神力を育てることが必要であり、そのためには、大人が答えを与えるのではなく、子ども自身が考え、つかみ取っていけるような環境や場を整えることが大切です。こうした考え方が、皆さんのご意見に共通する点であると感じています。
【議長】	それでは次に移らせていただきます。次に 2 つ目の基本方針であります。「郷土を愛する心を育てる」につきまして、まず事務局の説明をお願いします。
【事務局】	「郷土を愛する心を育てる」について説明。
【議長】	それでは、2番目に「郷土を愛する心を育てる」について、それぞれからお考え、コメント等をいただければと思います。
【委員】	郷土を愛する心を育てるため、学校や地域における体験の機会を、今後さらに充実させていくことが重要だと思います。そうした体験を通じて、子どもたちの郷土への愛着がより深まっていくものと思います。 また、子どもたちは多様なアイデアを持っており、歴史や文化を学ぶだけでなく、自分たちでやってみたいことについても多くの意見を持っていると感じています。簡単なアンケートなどを通じて子どもたちの声を取り入れ、主体的に取り組める活動を充実させていくことが望ましいと思います。 子ども議会などでも、意欲的で建設的な提案が見られることから、こうした子どもたちのアイデアを生かし、地域活性化と合わせて、菊池の良き伝統や文化を次世代へ広げていってほしいと思います。
【委員】	近年、地域の中で大人が子どもたちに郷土の歴史や文化を体系的に伝える機会が減ってきていると感じています。一方、学校では道徳や総合的な学習の時間などを通して、地域を巡ったり、地域の方から話を聞いたりしながら、ふるさとを理解し、誇りに思う子どもを育てる取組が行われています。 こうした学びをより充実させるためには、教師自身が地域の歴史や人物、史跡などについて理解を深めることが重要です。現在、一部の学校では教職員を対象に地域を学ぶ取組が進められており、夏休みなどの期間を活用した職員研修や、地域と学校連携協働活動を通じて、先生方が地域について学び、それを子どもたちに伝える取組が行われています。 今後は、この連携協働活動を軸に、生涯学習マイスター制度の活用による地域学習をさらに進めていくことが重要だと思います。こうした学びは、菊池で育った子どもたちが、将来ふるさとに誇りを持ち、社会で活躍していくためにも大切であると思います。
【委員】	「郷土が人を育み、人が郷土を育む」という基本理念のもと、学校と地域の交流が活発になってきていると感じており、地域学校協働活動のフォーラムで

【議長】	郷土を愛する心を育てることは、誇りの気持ちを生み出し、さまざまな課題を前に進める大きな原動力になると思います。ふるさとを家族や自分の家に例えるときれいで住みやすい方が良く、景観や環境を大切にしようとする意識が市民一人ひとりに広がり、団結することで大きな成果につながると思います。 そのためには、郷土を誇りに思うきっかけとして、まず知ることが重要であり、子どもだけでなく大人も学ぶ必要があります。歴史に対して敷居の高さを感じる人もいるため、祭りや地域の風習など、身近で親しみやすい切り口から学びを深めていく工夫ができると良いと思います。 また、合併した 4 つの地域それぞれの魅力を相互に知る取組を進めることで、新たな発見や地域理解の深化につながると思います。
【議長】	それでは 3 番目の「グローカルな人財を育てる」というテーマであります。事務局からの説明をお願いします。
【事務局】	「グローカルな人財を育てる」について説明。
【委員】	子どもたちのグローバルな人財を育てるためには、将来のリーダーを育成する視点が重要であり、発想力やコミュニケーション力を高める取組が必要だと思います。現在、プラチナ未来人財育成塾やプラチナ森の学校、子ども議会などの取組が行われていますが、子ども議会は中学生が対象であるため、小学校高学年も参加できるよう検討してほしいと思います。 また、これらの取組への参加者は、現在生徒会が中心ですが、スポーツや音楽など、さまざまな分野で活躍している子どもたちにも参加の機会を広げることで、多様な視点や新たなリーダーの育成につながると思います。明るく活力ある子どもたちが育ち、将来、菊池を担う人財として成長していくことを期待しています。
【委員】	学校を訪問した際、英語の授業で子どもたちが ALT の先生と気後れせず、楽しそうにコミュニケーションを取っている姿から、時代の変化を感じています。身振り手振りを交えながら、限られた英語でも外国にルーツを持つ人と直接交流する経験を重ねることで、外国語への抵抗感が少ない子どもたちが増えていると感じています。 今後、こうした取組がさらに充実することで、互いを理解しようとする姿勢や、さまざまな国への関心を持つ子どもたちが増えていくことを期待しています。また、自分のふるさとやルーツをしっかり理解した上で、多様性を認め合い、異なる言語や価値観を尊重しながら、関連する取組と一体的にバランスよく進めていくことが重要だと思います。
【委員】	菊池と世界をつなぐ人財育成に向けて、学力の向上に加え、多面的なものの見方を育む取組は、時代に即した重要な取組だと思います。小・中・高校それぞれのニーズに応じて、企業の専門家による授業や現場での体験学習など、実践的な学びの機会を充実させていくことが必要だと思います。 実際に、JA バンクによる小学校でのお金の出前授業では、農業経営における生産から販売までの流れや、経費やリスク、利益ややりがいについて学ぶ機会が提供されていました。また、県立高校の学びの祭典では、高校生が身近な

	自身を育てていく有力なアプローチになると思います。 　また、グローバル人財はコスモポリタンや単なるインターナショナルとは異なり、自国の文化や考え方を理解し、説明できることが重要です。多様な価値観を知ることで、改めて日本や地域の良さ、自分自身を見つめ直すことにもつながります。 　世界には違いがある一方で、喜怒哀楽といった共通点もあり、そうした気づきが人としての成長を促します。自分と地域の両方を育てるためにも、グローカルな視点や体験は不可欠であり、未来をたくましく生きる人財を育てる重要な入口になると思います。
【議長】	それでは続いて４番目のテーマで「生涯を通した学びを推進する」となります。事務局よりご説明があればお願いします。
【事務局】	「生涯を通した学びを推進する」について説明
【委員】	現在、キクロスカレッジのマイスターの登録者数は大きく増えていますが、地域や学校と連携しながらアイデアを出し合い、さらに活性化を図ってほしいと思います。また、マイスターには年齢層が高い方が多いため、今後を見据えて若い人財の育成が重要です。カリキュラムを充実させることで、次世代を担う若いマイスターを育て、地域や学校、スポーツ分野などで継続的に活躍できる体制づくりを進めていくことを期待しています。
【委員】	現代は変化のスピードが非常に速く、学び続けることが欠かせない時代だと感じています。その中で重要なのは、自ら課題を見つけ、学びたいという意欲を持てるかどうかであり、その力を学校教育で育てようとしています。 　一方で、大人になってから学びたいと思ったときに、学ぶための材料や場所が整っていなければ継続はできません。そのため、図書館には、いつでも調べ学べる環境を整え、学びたい人が安心感や満足感を得られる場であってほしいと思います。誰もが学びたいときに学べる風土を育むことが、「文教のまち菊池」にふさわしい姿だと思います。
【委員】	学校と地域がさまざまな形でつながり、共に活動したり同じ時間を過ごしたりすることで、子どもたちと地域の人々の関係が深まっていると感じています。特に、交流に学びが加わることで、高齢者の方々も楽しさや生きがいを感じておられるように思います。 　地域サロンの取組では、子どもたちと一緒に学習や「ふるさとかるた」を行い、世代を超えた交流が生まれ、双方にとって有意義な時間となりました。今後、学校の空き教室などを活用して高齢者サロンや公民館講座を開催することで、自然な学び合いと交流が広がるのではないかと思います。 　また、「ふるさとかるた」は世代を問わず楽しめる教材であり、大人も参加できる大会などを通して、郷土の歴史や文化に親しむ機会が広がることを期待しています。
【委員】	生涯学習マイスターによる出前講座として、菊之池小学校で防災マイスターの方々による防災・地震学習が行われ、地域ごとに危険箇所を考えるマップ作りを体験しました。今後、生涯学習マイスターが増えていく中で、防災や被災

	で支えていくことが大切だと感じています。
【議長】	それでは5番目のテーマでございます。「文化芸術やスポーツの振興を図る」というテーマです。事務局からの説明をお願いします。
【事務局】	「文化芸術やスポーツの振興を図る」について説明。
【委員】	文化芸術やスポーツの振興について、体験を通して子どもたちの個性や力を伸ばすことの大切さを感じています。市内の一部の学校で行われている漫才を通じた取組は、表現力やコミュニケーション力を高め、将来の可能性や自己表現につながる貴重な経験だと思いますので、今後も継続・拡大してほしいと思います。 また、スポーツ分野では、その分野で培われた指導力のある人財を活用するため、人材バンクのような仕組みを整えることが有効ではないかと感じています。これにより、指導内容や専門性が見える化され、部活動や地域展開にも生かせると思います。 さらに、中体連終了後の中学3年生を対象に、週1回程度の継続的なスポーツ活動を行い、礼儀や体づくり、次のステップへの準備を支援する取組も有意義だと思います。学校や地域の施設を活用しながら、子どもたちの心身の成長と健全な育成につなげていければよいと思います。
【委員】	文化面については、菊池に多く残る指定文化財や登録有形文化財について、これまでどおり地道に保存・活用を進めていくことが大切だと思います。文化財は一度失われると取り戻せない貴重な財産であり、流行に左右されない継続的な取組が重要です。ホームページや広報紙での紹介など、市民への周知も行われているため、今後も継続して発信していただきたいと思います。 一方、スポーツ面では、参加人数やイベント数だけでなく、年間を通して全くスポーツに参加していない人の存在も気になるところです。健康上の理由以外で参加していない方にも目を向け、公民館活動や体育館事業などを通じて、より多くの市民が人との交流や健康づくりのためにスポーツに参加できるよう、参加者の裾野がさらに広がることを期待しています。
【委員】	図書館のデジタル化は、文化を守り伝える有効な取組であり、アーカイブ化も重要だと思います。市内には歴史的に貴重な資料が点在していることから、保存や管理の観点でも、博物館を整備し、歴史・文化・科学・芸術などを集約して展示・学習できる施設があると望ましいと思います。さらに、体育館などを併設することで、観光資源としての活用や研究者の来訪促進にもつながり、市全体の活気を高める効果が期待できるのではないかと思います。
【委員】	生演奏を間近で聴くことができた子どもたちは、貴重で良い体験ができたと感じています。参加人数には限りがあるものの、市民会館だけでなく、学校単位での出前演奏会などを行うことで、伝統文化や演劇、芸術をより身近に体験できる機会を増やしてほしいと思います。音響などの課題はありますが、体育館の活用なども含め、子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実を期待します。
【委員】	歴史的なものの保存や日常的に体を動かすことの大切さは理解されている

	らと思います。 　さらに、外部人財の活用として、企業との連携によるお笑い文化の展開なども検討しており、広い意味での文化芸術による特色づくりを進めるとともに、スポーツ分野についても提案を踏まえながら考えてまいりたいと思います。
【議長】	これまで各委員さんには様々なご意見をいただきありがとうございました。 　それでは次に議題の 2 でその他ということですけども事務局からは何かありますでしょうか。
【事務局】	特にございません。
【議長】	ないようですので、進行を事務局にお返しします。

菊池市総合教育会議運営要綱第 12 条によりここに署名する。

委　員　岩根美紀